

European Vascular Course 2025

参加者:2名

敬称略・50音順

No.	お名前	ご所属	報告書番号
1	新里 建人	国立循環器病研究センター	1
2	眞岸 孝行	市立函館病院	2

1. 新里 建人(国立循環器病研究センター)

この度は日本血管外科学会、松田理事のご厚意により第 28 回 European Vascular Course に参加させていただきましたのでご報告致します。

EVC は毎年マーストリヒトで開催されています。2025 年は 3 月 9-11 日(日-火)という日程でした。EVC 公式からはアムステルダム、ブリュッセル、デュッセルドルフを奨めています。私はフランクフルトを選択しました。その理由は以下の通りです。

- ・金曜の夜出発し土曜(前日)の夕方に現地へ着けること
- ・火曜(最終日)の夜、出国できること

上記を条件とした場合、いずれの3つの空港も不適であり、必然的にフランクフルトの JAL 便を選択しました。金曜の深夜便で羽田からヒースロー空港(JAL)を経由し、フランクフルト空港(British Airways)へは土曜の 11 時ごろに到着しました。フランクフルト空港からはドイツバーン(DB)に乗ってマーストリヒトを目指します。こちらは Omio というアプリが非常に役に立ちました。全行程のチケットを一括で取得でき QR コードを取得できます。手数料が 2000 円ほど取られますが、領収書も発行でき乗り換えの案内も親切です。DB には改札はなく、乗車中に車掌にチケットの提示を求められた時に提示できれば良いようです。フランクフルト空港からはケルン、アーヘンで乗り換えし約 3 時間の電車移動の末にマーストリヒト中央駅へ到着しました。関空からの移動を考えると 27 時間くらいかかりました。

会場である MECC はマーストリヒト中央駅からは 1 駅のマーストリヒト ラントウィク駅が最寄りになります。マーストリヒト中央駅からも徒歩 20 分ほどで行けます。ホテルはマーストリヒト中央駅周辺に集中しています。電車は 15 分間隔で運行しており、バスは無料になるようですが、私は散歩がてら毎日徒歩で移動



しました。会場は Artery, Vein, Vascular Access, Cardio-vascular, OR Nurses の 5 つに分かれており、それぞれに Scientific, Workshop が設けられています。Artery は Endo または末梢血管の内容が多く、大動脈の Open surgery は Cardio-vascular に割り付けられていました。会場の広さかというと、Artery が最も大きく、Cardio-vascular が一番小さく離れた場所でした。会場にアジア系の人はほとんどいません。中国系と思われる 4-5 人の 1 グループを目撃したのみでした。参加者は学生か若手医師と思える年齢層が中心であり、そのためかワークショップも AVR や ECMO のコーナーが人気で、David/Yacoub や AMDS あたりはガラガラでした。ワークショップは EVC 専用アプリがあり、そこから予約できます。Scientific は予約不要で各セッションの総論のような話が聞けます。こちらに参加するよりも、積極的にワークショップに参加する方が良いような印象を受けました。私は AMDS (ARTIVION)、胸腹部用の開窓型ステントグラフト (ARTIVION)、胸部用の Branched stent graft (CRATOS)のワークショップへ参加しました。どれも日本未承認で、今後使えるようになるかは不明ですが、実際に体験きて非常に有意義なものとなりました。

会場では 10 時半にコーヒースタンド(マカロンがあります)、13 時にランチ(サンドイッチのみ)があり飲み放題食べ放題となっています。両日ともに同じものしか出ません。



服装はみんなカジュアルです。スーツを着てネクタイを締めている人は演者か企業のセールスマンくらいでした。ジーンズを履いている人も多いです。私はニットにジャケットで参加しました。ネクタイはむしろ浮くかもしれません。

マーストリヒトの街並みは綺麗です。大きな川が流れており、中心街も水路が流れています。特徴的な建造物やお土産はありませんでしたが、古い街並みが残っておりヨーロッパでは割と人気の観光地のようです。治安は良く、街中を歩いても声をかけられることはほとんどありません。

今回の経験を通して、ヨーロッパでの血管外科領域の現状を知ることができたものですが、日本人のいない異国を一人で旅して学ぶという経験自体も非常に勉強になりました。行く前は不安でいっぱいでしたが、いざ行ってみると毎日新しい発見ばかりで毎日が刺激的でした。このような機会を与えていただいた血管外科学会様と同会理事松田先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。迷っている方がいましたら、一人でもぜひ参加することをお勧めします。

2. 眞岸 孝行(市立函館病院)

この度 2025/3/9～2025/3/11 までオランダマーストリヒトで開催された EVC に参加して参りましたのでご報告させていただきます。行きに関しては函館から羽田、羽田から香港、香港からアムステルダムとかなり乗り継ぎが多い方法を取りました。アムステルダムについては電車移動でしたが日本とは景観がかなり違い車窓を眺めているだけであつという間に時間が過ぎてしまいました。会場は駅から 2km 付近の場所にありました。宿を少し会場から遠いところにとつてしまい、片道 1.5km 程度ありましたが、とても綺麗に道路も整備されており、散歩などにはうってつけの距離だったように感じました。気温はお昼に 20℃近くまで上がり、夜間は少し肌寒いくらいでした。学会期間中は快晴で写真のように非常に綺麗な景色が広がっておりました。

EVC では私はワークショップに複数参加して参りました。ワークショップもドライラボからウェットラボ、基礎的な内容から最先端のデバイスを用いたものまで幅広くありました。アプリで事前予約を取るような形となっており、申込開始直後から結構早い段階で席が埋まって行ってしまうような印象でしたので、次回参加される方は早めの登録をお勧めいたします。私は医師 3 年目であり、基礎的なワークショップを中心に参加しました。1 日目は EVT のデバイス選択やストラテジーについてのワークショップ、バスキュラーアクセスや腹部大動脈瘤の回復人工血管置換など実際の手技をメイン、2 日目は基礎的な吻合スキルや創部処置に関して、3 日目は各種公演に参加しました。吻合などを行う際には様々な国の方と一緒にすることになりますが、国や地域によっても運針する際の意識・手技の際に注意することなど様々な違いがあり非常に勉強になりました。また英語を使ってコミュニケーションをとりながら様々な手技を進めるという経験ができました。今後さらに円滑にコミュニケーションをとっていけるよう語学に関してもさらに深めていく必要があると感じました。特に基礎系のワークショップでは年次が近い先生方も多く、コミュニケーションをとる中で様々な情報共有を行うことができ非常に有意義な時間を過ごすことができました。今回の ECV 参加で多くの刺激や学びを得ることができました。この経験を日常の診療に活かし、日々研鑽を積んでいきたいと思ひます。

この度はこのような貴重な機会を与えてくださいました日本血管外科学会、ヨーロッパ血管外科学会の皆様に熱く御礼申し上げます。





